

創造性を阻害しない薄さと軽さですね。



STYLISH PARTNER

クリエイティブでもビジネスでも万能

スタイリッシュなパートナー

「2 in 1でなければこれからのビジネスには勝てない」。HUAWEI MateBookを手にした気鋭のコンサルタントが放ったその言葉は、なにを意味しているのか？

Words: Tomonari Cotani Photos: Koutarou Washizaki

並木裕太

フィールドマネージメント代表取締役
1977年ベルギー生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。2000年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。09年に独立し、フィールドマネージメントを設立。著書に「コンサル—〇〇年史」(Discover21)など。

スマホメーカーだからできた2 in 1 タブレット

「思いのほか直感的ですね。それにしてもスタイリッシュで軽くて薄い！」

液晶画面にMatePenを走らせながらそう語る男の名は、並木裕太。アメリカの名門コンサルティング会社、マッキンゼー・アンド・カンパニー日本支社において最年少で役員を務めた後、2009年にフィールドマネージメントを起業した人物だ。そんな並木が、表参道に面した自身のオフィスで向き合っているのは、「HUAWEI MateBook」。世界有数のスマホメーカーである「ファーウェイ」が培った技術を凝縮した、スタイリッシュなデザインと高い携帯性を併せもつWindows10搭載の2 in 1 タブレットである。さまざまなビジネスの「フィールド」を縦横無尽に走り回っている並木にとって、「薄くて軽量な高性能ノートPC」が必要不可欠なツールであることは、想像に難くない。では、MateBookのもうひとつの特徴である「タブレット & MatePen」は、並木の目にどう映っているのだろうか？ 「実は最近、仕事でスケッチ画を描くケースが増えているんです。例えばアンダーアーマーやロンハーマンと共同でアパレルのデザイン開発を行っているのですが、ロゴデザインのイメージを伝えるためには、やはり自分でスケッチを描くのが一番です。今までだと、紙に描いたスケッチをスマホのカメラで撮り、それをメールに添付してデザイナーに送っていたのですが、MateBookであれば、そのフローがもっとシンプルになるわけですね。それはかなり魅力的な変化です。原画の管理も楽になるし、紛失してしまうこともなくなるでしょうね」

MatePenでタブレットに直接描けるメリットはまだほかにもあると、並木は続ける。

「僕はイラストレーターではないので、難しいものを書く時は、イメージに近いモチーフを模写することで自分のイメージを伝えるようにしています。これまではiPadに画像を出し、その上に紙を置いてなぞっていたのですが、そんなわずらわしいことをしなくても、MateBookとMatePenなら簡単にトレースをできるので非常に助かります」

ロジックとデザインの融合が これからのビジネスを加速する

それにしても、ブランドコンセプトならいざ知らず、デザイン開発までをコンサルタントが担うのは少し意外な気もするが……。

「前職のマッキンゼーが、最近、デザイン会社を買収しました。資料の見栄えを向上させたり、『こんなプロダクトを作りましょう』という提案をする際、概念的なテキストではなく、初期デザインをきちんと示すことが目的だと思うのですが、正直、『本質的じゃないな』と感じたんです。でも、その認識が覆されることが僕の中で起きたんです」

それは、並木が愛してやまない野球に関する出来事だったという。

「僕はずっと、ひとつの思考実験として、『東京ダックス』という架空の野球チームの構想を練っていました。僕の地元が巣鴨だからダックスで(笑)、チームのロゴやユニフォームのデザインもきちんと仕上げ、資料として持ち歩いていました。一方フィールドマネージメントでは、この7、8年間、とあるプロ野球球団にずっと営業をかけていたのですが、門前払いが続いていました。ある日、その球団

FOR EVERY SCENE

ビジネスを拡張する2つの使い方

ノートPCスタイルとタブレットスタイルをスムーズに切り替え可能。
デジタルデバイスの「いいとこ取り」をしたこのMateBookを並木裕太はどう使う？

Creative style



手描き感覚のペンを使えば クリエイティブにも最適

MateBookに別売りで用意されているMatePenは、筆圧を2048段階で感知するという繊細な描き味を誇る。「描き味がエンピツと変わらないことには本当に驚きました。本格的にAdobeのIllustratorの使い方を習いたくなります。それに加えてこのペン、レーザーポインタとプレゼンコントローラー機能が付いているんですね。まさにMatePenですね」。

Business style



膝の上に乗せたりリラックス スタイルでもらくらくビジネス対応

画面アスペクト比は、PDFなどの書類ファイルを開覧するのに最適といえる3:2。「外出中にスタッフのパワーポイントの資料を見ることもしゅちゅうです。スマホで見ると形が崩れてしまうので、よく「なんでここに数字入ってないんだよ」と半ギレして「入ってます」と返信が来る、といったやりとりをしていたのですが、その無駄な時間がなくなりそうです(笑)」。

の関係者とご飯を食べている時に、何気なく東京ダックスの資料を見せたんです。そうしたら思いのほか反応がよく、そこから一気に社長を紹介していただき、早速仕事につながりました。その時、デザインのパワーって侮れないなということも、心底実感したんです。『東京ダックスというチームがあって……』ということテキストで渡しても、おそらく『ああそう』で終わっていたでしょうから」

そんな実体験を経た並木は、今後のビジネスのあり方に対し、こんな考え方を提示する。「ファンクションとエモーション、ロジックとデザインを融合しないと、もはやサービスもプロダクトも成り立たなくなっているのかなど。つまり、ビジネスの現場においては、2 in 1でなければ勝てなくなっているのです。しかもこのMateBookは、スタイリッシュにそれを実現しているのでもっと気に入っています」

デスクトップPCに比肩する処理能力を、薄く、秀麗なボディに宿すMateBook。世界有数のスマホメーカー「ファーウェイ」が培った技術力を余すところなく注ぎ込んだ、知的でラグジュアリーなこの2 in 1 タブレットによって、ビジネスの様相は瞬間に変わっていくことだろう。



HUAWEI MateBook

航空機グレードの高品質アルミニウム素材を、60を超える複雑な加工工程によって成型したボディは、薄さ6.9mm、重さ640gというクラス最高の薄さと軽さを誇る。12インチのIPS液晶ディスプレイは、2160×1440の高精細。大容量リチウムイオンバッテリーは、約9時間の連続稼働を実現。スタイリッシュかつ携帯性にも優れている別売りのカバーとドックは、4種類のカラーバリエーション。



1. 別売りのキーボードのカラーバリエーションは、ブラック、ブラウン、オレンジ、ベージュの4色展開。2. カバーを兼ねたキーボードを閉じると、コンパクトに持ち運べる。3. 別売りの付属品「MateDock」には、バッテリーチャージャーやペンがきれいに収まる。

EVENT NEWS

「GQ JAPAN」×HUAWEI MateBook Caféが期間限定オープン

HUAWEI MateBookの魅力を体験していただける「GQ JAPAN」×HUAWEI MateBook Caféが、下記の日程で期間限定でオープンします。期間中、来店してSNS投稿をした方のうち、毎日先着30名様にオリジナルタンブラーをプレゼント。

7月25日(月)～31日(日) 8月1日(月)～5日(金)
Royal Garden Cafe 青山 Royal Garden Cafe 渋谷
東京都港区北青山2-1-19 東京都渋谷区宇田川町4-3
ホテルユニゾ 2F